

修士論文(要旨)
2023年1月

大学生の心理的特性と友人関係の関連について

指導:鈴木 平 教授

国際学術研究科
国際学術専攻
心理学実践研究学位プログラム
ポジティブ心理分野
221J2055
笹島 和行

Master's Thesis (Abstract)
January 2023

Relationships between Psychological
Characteristics and Friendships
of University Students.

Kazuyuki Sasajima
221J2055
Master of Arts Program in Positive Psychology
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Taira Suzuki

目次

第1章背景.....	1
1.1 はじめに.....	1
1.2 自閉スペクトラム症.....	1
1.3 Highly Sensitive Parson (HSP)	3
1.4 愛着.....	5
1.5 ASD と HSP の性差.....	6
1.6 ASD と HSP	7
1.7 学生のコミュニケーションと ASD.....	8
1.8 学生のコミュニケーションと HSP	8
第2章目的.....	8
第3章方法.....	8
3.1 調査時期と調査対象.....	8
3.2 調査内容.....	9
3.3 手続き.....	10
3.4 倫理的配慮.....	10
3.5 分析方法.....	10
第4章結果.....	10
4.1 年齢・各尺度の基礎データとピアソンの積率相関係数の算出.....	10
4.2 各尺度の性差についての検討.....	16
4.3 友人関係尺度の下位因子高群・低群における各尺度の差の検討.....	17
4.4 友人関係の下位尺度と ASD 傾向、HSP、Big Five、Empath、愛着問題の関連.....	29
4.5 友人関係の下位尺度高群・低群の判別について.....	40
第5章考察.....	44
5.1 各尺度についての性差の検討.....	44
5.2 自己開示についての検討.....	45
5.3 配慮・気遣いについての検討.....	47
5.4 評価懸念についての検討.....	48
5.5 干渉回避についての検討.....	50
第6章まとめと展望.....	51
引用文献	
資料	

第1章 背景

自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder : ASD)は、DSM-5 で陽性の情動の表現の減弱、認知と言語の遅れ、特定の音や触感、痛み、熱さなどの感覚入力に対する明らかな過敏さ、または鈍感さがあり、ストレスや尽力に苦しんでいる特徴が報告されている。また、HSP (Highly Sensitive Person)は提唱者の Aron & Aron(1997)が敏感さの程度として感覚処理感受性を述べ、特徴として僅かな刺激に対して特に敏感であり、簡単に刺激過剰となり、臭い、音、光などに特に敏感であることが明らかになっている。また、Orloff (2017)は高過敏性が発達した状態として対人関係に注目したエンパスを報告した。しかし、HSP やエンパスについても現状では十分に研究が進んでおらず、今後の課題である。次に愛着について Bowlby(1973 黒田・岡田・吉田訳 1977)は子と親の関係から、対人関係を判断する枠組みを形成すると考え、内的作業モデルを報告し、Bartholomew(1990)が愛着のスタイルにより対人関係パターンがあると述べた。愛着は対人関係に影響があることが考えられ、ネグレクトなどにより親と良好な関係を形成できないことで反応性愛着障害があるとされている。

以上のことから、ASD、HSP、愛着はそれぞれ対人関係に影響があり、ASD は HSP と愛着障害と概念的に似ている部分があることが考えられる。

第2章 目的

本研究では大学生を対象に自閉スペクトラム症傾向、Highly Sensitive Person、エンパス、親への愛着、パーソナリティ特性などの心理的特性が友人関係とどのような関係があるかについて検討することを目的とした。

第3章 方法

3.1 調査時期と調査対象

桜美林大学の大学生を対象に 2021 年 10 月から 2022 年 5 月末の間調査を実施した。分析対象は 462 名 (男性 179 名、女性 252 名) であった。

3.2 調査内容

- 1) 自閉症スペクトラム指数日本語版(若林・東篠・Baron-Cohen・Wheelwright, 2004)
- 2) Highly Sensitive Person Scale 日本語版 (高橋, 2016)
- 3) Big Five 尺度短縮版(並川・谷・脇田・熊谷・中根・野口, 2012)
- 4) 友人関係尺度 (永井, 2016)
- 5) エンパス尺度 (串崎, 2019)
- 6) 親への愛着尺度 (丹羽, 2005)

第4章;第5章 結果と考察

各尺度についての性差の検討

本研究では ASD 合計点において女性の方が高いという有意差傾向が見られており、Baron-Cohen(2002)の自閉症の極端男性理論のように男性の方が ASD 指数が高いという仮説は支持

されなかった。

また、女性の HSP が全て有意に高く、情緒不安性と調和性も高かった。このことから男性より友人関係の危機に敏感であり、友人関係を築くことができることが考えられる。

愛着問題について男性の方が有意に高い点は大石(2016)によると男性の方が女性よりも有意に親から自立したいという思いが高いことから、反映された結果であることが推察される。

自己開示についての検討

分析の結果、Empath 傾向、愛着問題が高くなるほど、自己開示が低下していると考えられ、HSP 傾向が高くなるほど、自己開示が高くなることが判明した。被説明変数と説明変数の関連性をより明確にするために、分析の対象を被説明変数の高低で重回帰分析を行った結果、愛着問題、開放性が高い人ほど、自己開示が低下していると考えられ、HSP 傾向、外向性が高い人ほど、自己開示が高くなっていた。また、自己開示の高低は ASD 傾向、HSP 傾向、パーソナリティ特性、Empath 傾向、愛着問題で 83.3%判別できることが明らかとなった。すなわち、今回調査を行った心理的特性によって自己開示の高低が高い精度で判別できたことを意味する。

配慮・気遣いについての検討

分析の結果、外向性が高くなるほど、配慮・気遣いが高くなることが明らかになった。被説明変数と説明変数の関連性をより明確にするために、分析の対象を被説明変数の高低で重回帰分析を行った結果、誠実性が高いほど配慮・気遣いが低くなり、外向性、HSP 傾向、開放性、愛着問題、調和性が高いほど配慮・気遣いが高くなることが明らかになった。また、配慮・気遣いの高低は ASD 傾向、HSP 傾向、パーソナリティ特性、Empath 傾向、愛着問題で 79.5%判別できることが明らかとなった。すなわち、今回調査を行った心理的特性によって配慮・気遣い高低が高い精度で判別できたことを意味する。

評価懸念についての検討

分析の結果、情緒不安性、外向性、愛着問題が高くなるほど、評価懸念が高くなることが明らかになった。被説明変数と説明変数の関連性をより明確にするために、分析の対象を被説明変数の高低で重回帰分析を行った結果、情緒不安性、愛着問題、HSP 傾向、外向性が高くなるほど、評価懸念が高くなっていた。また、評価懸念の高低は ASD 傾向、HSP 傾向、パーソナリティ特性、Empath 傾向、愛着問題で 78.0%判別できることが明らかとなった。すなわち、今回調査を行った心理的特性によって評価懸念の高低が高い精度で判別できたことを意味する。

干渉回避についての検討

分析の結果、調和性が高いと干渉回避が低下し、開放性、HSP 傾向が高いと干渉回避が上がるということが判明した。被説明変数と説明変数の関連性をより明確にするために、分析の対象を被説明変数の高低で重回帰分析を行った結果、誠実性、調和性が高いと干渉回避が低下しており、

HSP 傾向、開放性が高いと干渉回避が高くなっていた。また、干渉回避の高低は ASD 傾向、HSP 傾向、パーソナリティ特性、Empath 傾向、愛着問題で 84.2%判別できることが明らかとなった。すなわち、今回調査を行った心理的特性によって干渉回避高低が高い精度で判別できたことを意味する。

第 6 章まとめと展望

本研究の結果、友人関係と ASD 傾向、HSP 傾向、パーソナリティ特性、Empath、親との愛着の関連などの変数と関連性があることが明らかとなり、大学生における友人関係の理解が進んだと考えられる。一方で、ASD や、HSP、パーソナリティ特性、Empath は先天的なもの、あるいは特性的なものであると考えられることから、友人関係の改善のためにこれらを変容させることは困難であることが指摘される。また、愛着の問題は後天的な環境要因由来であるとしても、短期間で変容することは困難であると言える。本研究から、友人関係に影響を及ぼす臨床的に重要な特性的な問題を理解することが進んだが、今後の研究では、さらに友人関係の改善への寄与について検討することが求められるだろう。

引用文献

- Acevedo, B., Aron, E., Pospos, S., & Jessen, D. (2018). The functional highly sensitive brain: a review of the brain circuits underlying sensory processing sensitivity and seemingly related disorders. *Philosophical Transactions of the Royal Society B: Biological Sciences*, 373, 20170161.
- 赤城 知里・中村 真理 (2017). 感覚処理感受性とソーシャルスキル、精神的回復力の関連性の検討 東京成徳大学臨床心理学研究, 17, 59-67.
- American Psychiatric Association (2013). Diagnostic and Statistical Manual of Mental disorders(5thed). Washington, D.C:APA, pp49-57. (高橋三郎・大野裕(監修)(2014). DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院)
- Andrew J.O.Whitehouse, Kevin Durkin, Emma Jaquet, & Kathryn Ziatas. (2009). Friendship, loneliness and depression in adolescents with Asperger's Syndrome. *Journal of Adolescence*, 32, 309-322
- Aron, E. N., & Aron, A. (1997). Sensory-processing Sensitivity and Its Relation to Introversion and Emotionality. *Journal of Personality and Social Psychology*, 73, 345-368.
- Assary, E., Zavos, H.M., Krapohl, E., Keers, R., & Pluess, M. (2021). Genetic architecture of Environmental Sensitivity reflects multiple heritable components: a twin study with adolescents. *Molecular Psychiatry*, 26, 4896-4904.
- Baron-Cohen S. (2002). The extreme male brain theory of autism. *Trends in Cognitive Sciences*, 6, 248-254.
- Baron-Cohen, S., Wheelwright, S., Skinner, R., Martin,J., & Clubley, E. (2001) The Autism-Spectrum Quotient (AQ) : Evidence from Asperger syndrome/high-functioning autism, males and females, scientists and mathematicians. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 31, 5-17.
- 土井隆義 (2008). 友だち地獄:「空気を読む」世代のサバイバル 筑摩書房
- 榎本 博明 (1987). 青年期 (大学生) における自己開示性とその性差について 心理学研究, 58, 91-97.
- 榎本 淳子 (1999). 青年期における友人との活動と友人に対する感情の発達的变化 教育心理学研究, 47, 180-190.
- Evers, A., Rasche,J. & Schabracq, M.J. (2008). High sensory-processing sensitivity at work. *International Journal of Stress management*, 15, 189- 198.
- 福森崇貴・小川俊樹 (2006). 青年期における不快情動の回避が友人関係に及ぼす影響 —自己開示に伴う傷つきの子測を媒介要因として パーソナリティ研究, 15, 13-19.
- 飯村周平 (2016). 中学生用感覚感受性尺度(SSSI)作成の試み, パーソナリティ研究, 25, 154-157.
- 池田慎哉 (2015). 大学生における自閉症スペクトラム傾向と抑うつ傾向の関連についての質問紙調査研究, *The Japanese Journal of Autistic Spectrum*, 13, 13-19.

- 井上 雅彦 (2010). 二次障害を有する自閉症スペクトラム児に対する支援システム 脳と発達, 42, 209-212.
- 石崎 優子 (2017). 子どもの心身症・不登校・集団不適應と背景にある発達障害特性 心身医学, 57, 39-43.
- 石澤香織・細川美由紀(2018). 一般大学生における ASD 傾向と不安感に関する検討 茨城大学教育学部紀要, 67, 409-422.
- 岩永竜一郎 (2010). 自閉症スペクトラムの子どもへの感覚・運動アプローチ入門 東京書籍
- Kagan, J. (1994). Galen's prophecy: Temperament in human nature. New York: Basic Books.
- Kanner, L. (1943). Autistic disturbances of affective contact. *Nervous Child*, 2, 217-250.
- 葛西 真記子・松本 麻里 (2010). 青年期の友人関係における同調行動—同調行動尺度の作成— 鳴門教育大学研究紀要, 25, 189-203.
- 木村 大樹 (2019). 自閉症スペクトラム症傾向の高い大学生の対人不安の特徴—自尊感情および公的自意識と関連から, パーソナリティ研究, 28, 97-107.
- 近藤 賢・山下 翼・舛元 崇史・宮崎 理紗・川井田 大輔・谷口 弘一 (2015). 大学生の友人関係における心理的距離のとり方 教育実践総合センター紀要, 14, 137-140.
- 串崎 真志 (2019). 感覚処理感受性が共感の正確性と動作の模倣に及ぼす効果 関西大学心理学研究, 10, 1-9.
- Liss, M., Timmel, L., Baxley, K., & Killingsworth, P. (2005). Sensory processing sensitivity and its relation to parental bonding, anxiety, and depression. *Personality and Individual Differences*, 39, 1429-1439.
- 李 艶・酒井 悠次 (2010). ストレスイベント・ストレスコーピング・社会的スキルの関連についての研究—大学生の対人関係の場合— 聖泉論叢, 18, 53-65.
- 満野 史子 (2014). 大学生の友人関係における気遣いの研究—向社会的・抑制的気遣いの規定因と影響 風間書房
- 増淵 裕子・満野 史子・今城 周造 (2018). 大学生におけるひとりで過ごすことに関する感情・評価、自我同一性と友人への気遣いとの関連 昭和女子大学生活心理研究所紀要, 20, 1-14.
- 三浦 正江・細田 幸子 (2015). 大学生を対象としたストレスマネジメントプログラムの効果: 知識・スキルの理解および実行の観点から 東京家政大学研究紀要, 55, 113-121.
- 宮腰 裕子(2005). 愛着スタイルと大学生の心理特性との関連--内的作業モデルが共感性や自己開示に与える影響について 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要, 7, 207-213.
- 村中 昌紀・山川 樹・坂本 真士(2019). 対人過敏傾向・自己優先志向が対人ストレスイベント、抑うつに及ぼす影響についての縦断的検討 日本パーソナリティ心理学会, 28, 7-15.
- 中西 陽・石川 信一・神尾 陽子 (2016). 自閉スペクトラム症的特性の高い中学生に対する通常学級での社会的スキル訓練の効果 教育心理学研究, 64, 544-554.
- 中園 尚武・野島 一彦 (2003). 現代大学生における友人関係への態度に関する研究—友人関係に対する「無関心」に注目して— 九州大学心理学研究, 4, 325-334.

- 小口 孝司 (1989). 開示者のパーソナリティについての開示者・受け手による判断の一致度と自己開示動機との関係について *The Japanese Journal of Psychology*, *60*, 224-230.
- 丹羽 智美 (2016) 親への愛着と親、友人との心理的距離の関係 四天王寺大学紀要, *62*, 187-198.
- 野田 航 (2012). 性差に関連した海外の文献レビュー特集「発達障害とジェンダー/男の生き方・女の生き方と自閉症スペクトラムであること」 *アスペハート*, *30*, 16-21.
- 大石 美佳 (2016) 若者の自立支援—家族関係学が貢献できること— 日本家政学会家族関係学部会, *35*, 37-45.
- Penton-Voak, I. S., Bate, H., Lewis, G., & Munafò, M. R. (2012). Effects of emotion perception training on mood in undergraduate students: randomized controlled trial. *e British Journal of Psychiatry*, *201*, 71-72.
- Sandin, S., Lichtenstein, P., Kuja-Halkola, R., Hultman, C., Larsson, H., & Reichenberg, A. (2017). The Heritability of Autism Spectrum Disorder, *American Medical Association*, *318*, 1182-1184.
- Smolewska, K. A., McCabe, S. B., & Woody, E. Z. (2006). A psychometric evaluation of the Highly Sensitive Person Scale: The components of sensory-processing sensitivity and their relationship to the BIS/BAS and “Big Five”. *Personality and Individual Differences*, *40*, 1269-1279.
- 高橋亜希 (2016) Highly Sensitive Person Scale 日本語版 (HSPS-J19)の作成, 感情心理学研究, *23.2*, 68-77.
- 高坂 康雅 (2010) 現代大学生における友人関係への態度に関する研究—友人関係に対する「無関心」に注目して— 教育心理学研究, *58*, 338-347.
- 白倉 瞳・濱口 佳和 (2015) 対象別評価懸念の促進要因に関する検討 日本心理学会第 79 回大会発表論文集, 338.
- 若林明雄, 東篠吉邦, Simon Baron-Cohen & Sally Wheelwright (2004). 自閉症スペクトラム指数 (AQ)日本語版の標準化—高機能臨床群と健常成人による検討— *The Japanese Journal of Psychology*, *75*, 78-84.
- 山本 淳一・楠本 千枝子 (2007) 自閉症スペクトラム障害の発達と支援 認知科学, *14*, 621-639.
- 山末 英典 (2009). 自閉症スペクトラム障害の MRI 研究 脳と精神の医学, *20*, 287-294.
- Yano, K., & Oishi, K. (2018) The relationships among daily exercise, sensory-processing sensitivity, and depressive tendency in Japanese university students. *Personality and Individual Differences*, *127*, 49-53
- 矢野 康介・遠藤 伸太郎・坂内 くらら・大石 和男 (2019) 感覚処理感受性と抑うつ傾向における因果関係の推定 日本心理学会, *89*, 3B-003.
- 矢野 康介・木村 駿介・大石 和男 (2017). 大学生における身体運動習慣と感覚処理感受性の関連 体育学研究, *62*, 587-598.